

参 考 資 料

発着枠の配分のあり方についてご検討いただきたい主なテーマ

1. 基本的考え方について

羽田空港の再拡張により増加する国内線の発着枠の配分のあり方に係る基本的考え方。

2. 配分について

(1) 新規航空会社への配分について

新規航空会社には引き続き発着枠を優先配分すべきか。優先配分する場合、どの程度の発着枠を配分すべきか。
新規航空会社はどの程度の規模になるまで発着枠を優先配分すべきか。
新規航空会社への配分にあたり、使用対象路線に条件を付すべきか。

(2) ネットワーク維持・充実策について

地方ネットワーク維持・充実のためにどのような方策が必要か。これまでの「1便ルール」、「3便ルール」で十分か。
国内航空ネットワークの縮小が進行している状況を踏まえ、評価基準における「全国的な航空ネットワークの形成・充実への貢献」に係る評価項目について、より充実を図ることが必要ではないか。
現在乗り入れが制限されている小型機(60席以下)の取扱いをどうすべきか。

(3) その他

航空の安全をめぐる様々な事象の発生を踏まえ、「安全の確保」に係る評価項目についてより充実を図ることが必要ではないか。
希少な発着枠の適切かつ合理的な使用を図る観点から、新規航空会社に対する配分についても大手航空会社と同様の評価方式を導入するとともに、新規航空会社の配分スロットの活用状況を踏まえ、安定的な輸送サービスの提供に係る評価項目を追加することが必要ではないか。

羽田空港の発着枠の増加

| | | 現状 | 2010年の供用開始当初 | | 最終形 (安全面を確認しながら) |
|--------------------|------|----------------|---------------------|----------------|---------------------|
| | | | 供用開始時 (2010年10月) | 供用開始から半年後 | |
| 6時～22時台の 処理可能機数 | 出発回数 | 32回/時 | 34回/時 | 35回/時 | 40回/時 |
| | 到着回数 | 31回/時 | 33回/時 | 35回/時 | 40回/時 |
| 発着枠の総数/日 | | 830回 | 906回 | 960回 | 1,114回 |
| 国際定期便の発着回数 | | 24回 (12便) | 80回 (40便) | 80回 (40便) | 144回 (72便) |
| 国内定期便の発着回数 | | 806回 (403便) | 826回 (413便) | 880回 (440便) | |
| 国内定期便の増便可能数 | | - | 20回 (10便) | 54回 (27便) | |
| | | | 74回 (37便) | | 国際線・国内線の 割振りは未定。 |